

# 子供を対象としたサインに関する基礎的研究

指導：教授 近藤 健雄  
副手 山本 和清

2811 高橋 操

## 1. 研究背景

近年、日常生活で見られるさまざまなサイン環境においてのユニバーサルなサイン整備が求められている。そのサインのなかでも視覚的に作用する「ピクトグラム」は絵文字で情報を伝達するため、言語の障壁を乗り越えて、誰にでも理解できる機能を持つといわれている<sup>\*1</sup>。そこで、海岸のピクトグラム整備の状況をみると、日本のサイン整備は十分ではなく、バリアとなっていることがわかる。

## 2. 既往研究結果

河原崎・藤邨らの研究結果では、海浜公園のピクトグラムの理解度調査において小学生と大学生を比較してみると、小学生のピクトグラムの理解度が明らかに低いという結果が得られた。しかし、対象者が児童期の6歳から12歳と、年齢に非常にばらつきがあり、対象者人数が少なく、子供に対する理解度の特定が困難であるといえ、また、幼児期の子供を対象とした理解度の調査は行われていない。

## 3. 研究目的

そこで本研究では、幼児期の子供の理解度は把握できていない現状を問題点とし、幼児は海辺のピクトグラムにはほとんど触れていないため、日常生活でよく触れているピクトグラムに着目し、その理解度を把握し、その結果から対象者の理解度に影響を及ぼす構成要素について考察を行い、海辺におけるピクトグラム整備のあり方について示唆を得ることを目的とする。

## 4. 研究方法

ピクトグラムの理解度のアンケート調査を行い、対象地としては、横浜市にある幼稚園を選定し、ヒアリングによるアンケートを行った。対象者としては、幼稚園生の年少、年中、年長のそれぞれ3歳から6歳までの子供を対象とする。アンケート項目は、主に桜木町駅周辺に点在するピクトグラムと同じ意味を持つJISによって定められた、公共・一般施設、交通施設、商業施設、観光・文化・スポーツ施設、安全、禁止、注意、指示のピクトグラムとし、また、事前に幼稚園の教諭との話し合いで候補に挙げられたJISのピクトグラム（この理由としては子供が日常生活で接触する可能性の高いピクトグ

ラムの理解度の把握も行うため）、計51項目のピクトグラムを選定した。アンケート方法は1対1によるアンケート形式で、ピクトグラムを検討し、その意味を考え、子供に口頭で答えてもらう自由回答にした。

表 - 1 調査概要

調査方法	アンケート調査
調査期間	2003年11月～12月
調査実施地	幼稚園
調査対象者	幼稚園生（3歳～6歳）
対象者人数	年少10人、年中20人、年長20人 50人
有効回答数	100%

## 5. アンケート調査結果及び考察

アンケート結果を表 - 2 に示す。

公共・一般施設の項目のピクトグラム（25項目）

全体的に理解度にばらつきが見られ、「案内所」、「情報コーナー」、「忘れ物取扱所」のピクトグラムは理解度がどの層も0%という結果になった。「男子」と「女子」のピクトグラムでは、「女子」のピクトグラムの理解度は平均的に高いのに対し、「男子」のピクトグラムは低い、という結果になった。また、「きつぷうりば・精算所」、「コインロッカー」、「休憩所・待合室」のピクトグラムはどの層も非常に低い理解度を示したが、「電話」や「階段」、「シャワー」、「浴室」といったピクトグラムは高い理解度を示した。

交通施設の項目のピクトグラム（6項目）

英文字表記である「タクシー・タクシーのりば」、「駐車場」のピクトグラムを除いて、全体的に理解度が高いという結果が得られ、「鉄道・鉄道駅」、「バス・バスのりば」などのピクトグラムは、子供にも理解しやすい要素で構成されていることがわかった。「タクシー・タクシーのりば」のピクトグラムは、「パトカー」という回答が多く、違う意味を連想させた。

商業施設の項目のピクトグラム（1項目）

「レストラン」のピクトグラムはどの層も理解度が低かった。「フォークと包丁」という、ピクトグラムが示す対象物のみでの回答が圧倒的に多く、実際の意味を連想しづらいように見られた。

観光・文化・スポーツ施設の項目のピクトグラム（2

表 - 2 ピクトグラムの理解度 (%)

機能	番号	ピクトグラム	意味	年少	年中	年長	全体
公共・一般施設	1		案内所	0	0	0	0
	2		救護所	40	80	65	62
	3		情報コーナー	0	0	0	0
	4		警察	50	60	75	62
	5		病院	70	70	75	72
	6		お手洗い	30	75	75	60
	7		男子	30	30	65	42
	8		女子	60	75	75	70
	9		身障者用設備	20	50	65	45
	10		飲料水	80	65	45	64
	11		喫煙所	50	60	100	70
	12		きっぷうりば・精算所	10	15	25	17
	13		忘れ物取扱所	0	0	0	0
	14		コインロッカー	0	15	25	13
	15		休憩所・待合室	10	5	20	12
	16		郵便	70	85	90	82
	17		電話	100	90	100	97
	18		エレベーター	70	70	75	72
	19		エスカレーター	60	70	90	73
	20		階段	100	95	95	97
	21		乳幼児用設備	80	75	95	83
	22		シャワー	100	90	100	97
	23		浴室	90	90	100	93
	24		水飲み場	50	65	75	63
	25		くず入れ	70	85	90	82
交通施設	26		鉄道・鉄道駅	90	95	100	95
	27		船舶・フェリー・港	90	90	100	93
	28		バス・バスのりば	90	95	100	95
	29		タクシー・タクシーのりば	40	70	55	55
	30		自転車	90	90	100	97
	31		駐車場	10	50	50	93
商業施設	32		レストラン	10	25	25	20
観光・文化施設	33		海水浴場・プール	20	40	35	32
	34		公園	0	25	20	15
安全	35		消火器	10	60	50	40
	36		非常ボタン	0	5	15	7
	37		非常口	0	40	30	23
	38		禁煙	30	85	90	68
	39		火気厳禁	0	75	70	48
	40		立ち入り禁止	20	35	25	27
	41		走るな・かけ込み禁止	30	55	45	43
	42		さわるな	20	70	25	38
	43		捨てるな	40	85	80	68
	44		飲めない	0	45	15	20
禁止	45		携帯電話使用禁止	30	70	85	62
	46		撮影禁止	40	75	90	68
	47		遊泳禁止	20	65	40	42
	48		飲食禁止	20	60	70	50
	49		ペット持ち込み禁止	20	70	80	57
注意指示	50		滑面注意	20	40	25	28
	51		静かに	60	75	85	73

項目)

「海水浴場・プール」、「公園」の2項目ともどの層にも理解度が低いことがうかがえた。「公園」のピクトグラムは、「イスと木」という、ピクトグラムが示す対象物のみでの回答が多く、子供にとって理解しづらいという結果になった。

安全の項目のピクトグラム(3項目)

「消火器」のピクトグラムは年少の理解度が低く、「非常ボタン」、「非常口」のピクトグラムはどの層にも理解度が低く、子供には内容を理解しづらいように感じられた。

禁止の項目のピクトグラム(12項目)

全体的に理解度に非常にばらつきが見られ、「火気厳禁」、「飲めない」のピクトグラムは年少の理解度が0%、「立ち入り禁止」、「飲めない」のピクトグラムの理解度はどの層にも理解度が低いという結果になった。どの層も理解度が50%以上であるピクトグラムは見られなかった。また、年少の理解度が全体的に低く、年齢が上がっていくにつれ理解度もあがっていることがうかがえた。

注意の項目のピクトグラム(1項目)

「滑面注意」のピクトグラムはどの層も理解度が低く、実際の意味とは異なる回答が多いという結果が得られた。

指示の項目のピクトグラム(1項目)

「静かに」のピクトグラムは年少でも半分以上が理解しており、どの層も全体的に高い理解度を示した。

## 6. 結論

全体の理解度が50%以下のピクトグラムは51項目中15項目になった。幼児期である子供でも十分ピクトグラムが理解できることがうかがえた。子供は「電話」、「シャワー」、「階段」といった、日常生活に見られるものを主体とした構成要素をもつピクトグラムに対する理解度は高く、「案内所」、「情報コーナー」、「駐車場」といった、英語などの文字表示のみのピクトグラムは生活経験の少ない子供にとっては理解しづらく、情報が伝わりづらいといえる。また、禁止のピクトグラムは理解度にばらつきがあり、誤った意味で認識されていた項目が多く、違う意味を連想させるものがあることが把握できた。

今後の展開としては、地上のピクトグラムの理解度は把握できたので、海浜空間で用いた場合のピクトグラムのサイン整備を得るための検証を行う。

## 参考文献

- 1) 田中直人ら「サイン環境のユニバーサルデザイン」学芸出版社、1999年8月
- 2) 小田豊ら「新しい時代の幼児教育」有斐閣、2002年
- 3) 交通エコロジー・モビリティ財団標準案内図記号研究会「ひと目でわかるシンボルサイン」大成出版社、2001年
- 4) 保育士養成講座編纂委員会「児童心理学」社会福祉法人全国社会福祉協議会、1999年